

富山県高岡市  
市内遺跡調査概報 28

— 平成 29 年度 須田藤の木遺跡の発掘調査報告他 —

2019 年 3 月

高岡市教育委員会

富山県高岡市  
市内遺跡調査概報 28

— 平成 29 年度 須田藤の木遺跡の発掘調査報告他 —

2019 年 3 月

高岡市教育委員会

## 序

高岡市域においては、現在341箇所もの遺跡が周知されています。これら多くの遺跡で釀成された文化は、先祖から代々受け継がれ、現在の高岡市の風土や郷土文化をかたちづくっておりまます。本市としましては、これら貴重な文化財を今後も保護して参る所存であります。

このたび報告いたしますのは、個人住宅等の建設に伴い平成29年度に実施した試掘調査23遺跡38地区の概要です。

試掘調査では、須田藤の木遺跡にて古代の掘立柱建物を確認しており、井口本江遺跡では、縄文時代から近世にいたる遺物を検出するなど、貴重な資料を得ることができました。

本書が郷土における歴史探求や学術研究に活用していただければ幸いです。

末尾になりましたが、今回の発掘調査の実施にあたり、ご協力いただきました関係各位、地元の皆様に、厚くお礼申し上げます。

平成31年3月

高岡市教育委員会  
教育長 米谷 和也

## 例　　言

1. 本書は、富山県高岡市において高岡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。
2. 当調査は、個人住宅の建設等の開発行為に伴い実施したものである。
3. 現地調査は平成29年度に国庫補助金の交付を受けて実施し、これにかかる報告書作成は平成30年度補助金の交付を受け、高岡市教育委員会が実施した。
4. 本書で報告する遺跡ならびに調査地区は23遺跡38箇所である。
5. 調査形態は試掘調査である。
6. 調査関係者は以下のとおりである。

課　　長	杉 森 芳 昭
主　　幹	宇 波 育 代
係　　長	小 林 新 平
主　　任	田 上 和 彦
	杉 山 大 晋
非常勤職員	上 坂 哲 也
	盛 田 拳 生 (28年度～29年度)
	泉 田 侑 希 (30年度～)

7. 屋外調査は29年度に杉山・田上・盛田が担当し、報告書の編集は整理員の協力を得て、  
杉山・田上・泉田が担当した。
8. 発掘調査及び遺物整理の従事者は次の通りである。 (五十音順)

### 【現地調査】

草間博義 小板達朗 社内悦夫 高嶋輝雄 富田幸吉

### 【報告書編集作業】

松永幸恵 宮野美重子 山口淳子

9. 発掘調査にかかる遺物等の資料は、すべて高岡市教育委員会が一括保管している。
10. 現地調査や報告書の作成等は、以下の各氏・機関から指導・協力を得た。 (五十音順 敬称略)  
寺崎祐助 町田賢一

## 凡　　例

1. 本書に掲載した遺構図の方位は座標北であり、水平基準は海拔高である。
2. 本書においては、各遺構に対し、次のような記号を付してその種別を表した。  
S A : 樽址 S B : 据立柱建物 S D : 溝状遺構 S E : 井戸址 S K : 土坑  
S X : 囘地及び性格不明遺構
3. 本書においては、遺物実測図の縮尺のうち、特に記載のないものは土器・陶磁器類は1/3  
で統一した。その他は遺物番号などに記載している。

## 目 次

序  
例 言  
凡 例  
目 次

第1章 遺跡の位置と歴史的環境.....	1
第2章 試掘調査.....	5
1. 江尻C遺跡（館地区）	21. 須田藤の木遺跡（ローソン地区）
2. 越中国府関連遺跡（岩城地区）	22. 東保石坂遺跡（圃場整備地区）
3. 越中国府関連遺跡（高寺地区）	23. 中保B遺跡（朴木地区・大井地区）
4. 瑞穂町遺跡（増山地区）	24. 井口本江遺跡（大阪屋ショッピング地区）
5. 上野A遺跡（石浦地区）	25. 越中国府関連遺跡（折井地区）
6. 瑞龍寺遺跡（宮原地区）	26. 泉ヶ丘遺跡（森田地区）
7. 瑞穂町遺跡（澤田地区）	27. 石塚遺跡（宮脇地区）
8. 越中国府関連遺跡（藤田地区）	28. 大滝芋田遺跡（圃場整備地区）
9. 越中国府関連遺跡（岩田地区）	29. 大滝遺跡（圃場整備地区）
10. 越中国府関連遺跡（座谷地区）	30. 大滝島田遺跡（圃場整備地区）
11. 越中国府関連遺跡（鶴川地区）	31. 瑞龍寺遺跡（松下地区）
12. 下老子篠川遺跡（奥村地区）	32. 瑞龍寺遺跡（田島地区）
13. 越中国府関連遺跡（北村地区）	33. 越中国府関連遺跡（山下地区）
14. 越中国府関連遺跡（佐藤地区）	34. 蓮花寺遺跡（畠地区）
15. 上二上遺跡（黒木地区）	35. 麻生谷遺跡（圃場整備地区）
16. 東木津遺跡（市道地区）	36. 麻生谷新生園遺跡（圃場整備地区）
17. 波岡南遺跡（浦島地区）	37. 中曾根西遺跡（圃場整備地区）
18. 越中国府関連遺跡（マルシン地区）	
19. 東木津遺跡（西本地区）	
20. 間尽遺跡（四十九地区）	

## 挿 図 目 次

第1図	調査位置図	第32図	井口本江遺跡（大阪屋ショッピング地区）	第1番
第2図	江尻C遺跡（館地区）調査区位置図		トレンチ配置図	第2番
第3図	越中国府関連遺跡（岩城地区）調査区位置図	第33図	井口本江遺跡（大阪屋ショッピング地区）	図版01
第4図	越中国府関連遺跡（高寺地区）調査区位置図		遺物実測図	
第5図	瑞穂町遺跡（増山地区）調査区位置図	第34図	越中国府関連遺跡（折井地区）調査区位置図	
第6図	瑞穂町遺跡（増山地区）遺物実測図	第35図	泉ヶ丘遺跡（森田地区）調査区位置図	
第7図	瑞穂町遺跡（増山地区）トレンチ配置図	第36図	石塚遺跡（宮脇地区）調査区位置図	
第8図	上野A遺跡（石浦地区）調査区位置図	第37図	石塚遺跡（宮脇地区）遺物実測図	
第9図	瑞龍寺遺跡（宮原地区）調査区位置図	第38図	大滝芋田遺跡（圃場整備地区）調査区位置図	
第10図	瑞穂町遺跡（津田地区）調査区位置図	第39図	大滝遺跡（圃場整備地区）調査区位置図	
第11図	越中国府関連遺跡（津田地区）調査区位置図	第40図	大滝島田遺跡（圃場整備地区）調査区位置図	
第12図	越中国府関連遺跡（岩田地区）調査区位置図	第41図	瑞龍寺遺跡（松下地区）調査区位置図	
第13図	越中国府関連遺跡（座谷地区）調査区位置図	第42図	瑞龍寺遺跡（田島地区）調査区位置図	
第14図	越中国府関連遺跡（鶴川地区）調査区位置図	第43図	瑞龍寺遺跡（田島地区）遺物実測図	図版03
第15図	下老子笹川遺跡（奥村地区）調査区位置図	第44図	越中国府関連遺跡（山下地区）調査区位置図	
第16図	下老子笹川遺跡（奥村地区）遺物実測図	第45図	蓮花寺遺跡（畠地区）調査区位置図	
第17図	越中国府関連遺跡（北村地区）調査区位置図	第46図	麻生谷遺跡（圃場整備地区）調査区位置図	図版04
第18図	越中国府関連遺跡（佐藤地区）調査区位置図	第47図	麻生谷新生園遺跡（圃場整備地区）	
第19図	上二上遺跡（黒木地区）調査区位置図		調査区位置図	
第20図	東木津遺跡（市道地区）調査区位置図	第48図	中曾根西遺跡（圃場整備地区）調査区位置図	
第21図	波岡南遺跡（蒲島地区）調査区位置図	第49図	中曾根西遺跡（圃場整備地区）	
第22図	越中国府関連遺跡（マルシン地区）		トレンチ配置図	
	調査区位置図	第50図	中曾根西遺跡（圃場整備地区）遺物実測図	
第23図	東木津遺跡（西木地区）調査区位置図			
第24図	間尽遺跡（四十九地区）調査区位置図			
第25図	須田藤の木遺跡（ローソン地区）調査区位置図			
第26図	須田藤の木遺跡（ローソン地区）			
	トレンチ配置図			
第27図	須田藤の木遺跡（ローソン地区）遺物実測図			図版07
第28図	東保石坂遺跡（圃場整備地区）調査区位置図			
第29図	東保石坂遺跡（圃場整備地区）遺物実測図			
第30図	中保B遺跡（朴木地区・大井地区）			
	調査区位置図			
第31図	井口本江遺跡（大阪屋ショッピング地区）			図版08
	調査区位置図			

## 表 目 次

第1表 平成29年度の遺跡調査一覧

第2表 東保石坂遺跡（國場整備地区）出土縄文土器一覧

## 図 版 目 次

図版01 遺構写真 江尻C遺跡・越中国府関連遺跡

1. 江尻C遺跡（船地区）
2. 越中国府関連遺跡（岩城地区）
3. 越中国府関連遺跡（高寺地区）

第2トレンチ全景（南）

第2トレンチ全景（南）

第1トレンチ全景（西）

図版02 遺構写真 瑞穂町遺跡

1. 瑞穂町遺跡（増山地区）
2. 瑞穂町遺跡（増山地区）
3. 瑞穂町遺跡（増山地区）

第1トレンチ全景（北）

第2トレンチ全景（西）

第5トレンチ拡張全景（東）

図版03 遺構写真 上野A遺跡・瑞龍寺遺跡・瑞穂町遺跡

1. 上野A遺跡（石浦地区）
2. 瑞龍寺遺跡（官原地区）
3. 瑞穂町遺跡（澤田地区）

第1トレンチ全景（南）

第3トレンチ全景（西）

第2トレンチ全景（西）

図版04 遺構写真 越中国府関連遺跡

1. 越中国府関連遺跡（藤田地区）
2. 越中国府関連遺跡（岩田地区）
3. 越中国府関連遺跡（座谷地区）

第1トレンチ全景（東）

第1トレンチ全景（東）

第1トレンチ全景（東）

図版05 遺構写真 越中国府関連遺跡・下老子姫川遺跡

1. 越中国府関連遺跡（鷹川地区）
2. 下老子姫川遺跡（奥村地区）
3. 越中国府関連遺跡（北村地区）

第1トレンチ全景（西）

第2トレンチ全景（南）

第1トレンチ全景（南）

図版06 遺構写真 越中国府関連遺跡・上二上遺跡・東木津遺跡

1. 越中国府関連遺跡（佐藤地区）
2. 上二上遺跡（黒木地区）
3. 東木津遺跡（市道地区）

第2トレンチ全景（北）

第1トレンチ全景（南）

第1トレンチ全景（南西）

図版07 遺構写真 波岡南遺跡・越中国府関連遺跡・東木津遺跡

1. 波岡南遺跡（蒲島地区）
2. 越中国府関連遺跡（マルシン地区）
3. 東木津遺跡（西本地区）

第1トレンチ全景（北西）

第1トレンチ全景（西）

第1トレンチ全景（南西）

図版08 遺構写真 間尽遺跡・須田藤の木遺跡

1. 間尽遺跡（四十九地区）
2. 間尽遺跡（四十九地区）
3. 須田藤の木遺跡（ローソン地区）

第1トレンチ全景（西）

第2トレンチ全景（西）

第2トレンチ拡張全景（西）

掘立柱建物検出状況

図版09	遺物写真 須田藤の木遺跡・東保石坂遺跡	
	1. 須田藤の木遺跡（ローソン地区）	第4 トレンチ全景（西）
	2. 須田藤の木遺跡（ローソン地区）	第5 トレンチ全景（東）
	3. 東保石坂遺跡（圃場整備地区）	第3 トレンチ全景（西）
図版10	遺構写真 中保B遺跡・井口本江遺跡	
	1. 中保B遺跡（朴木地区）	第1 トレンチ全景（東）
	2. 中保B遺跡（大井地区）	第1 トレンチ全景（東）
	3. 井口本江遺跡（大阪屋ショップ地区）	第14 トレンチ全景（西）
図版11	遺構写真 井口本江遺跡・越中国府関連遺跡	
	1. 井口本江遺跡（大阪屋ショップ地区）	第15 トレンチ全景（西）
	2. 井口本江遺跡（大阪屋ショップ地区）	第16 トレンチ全景（東）
	3. 越中国府関連遺跡（折井地区）	第2 トレンチ全景（北）
図版12	遺構写真 泉ヶ丘遺跡・石塚遺跡・大滝芋田遺跡	
	1. 泉ヶ丘遺跡（森田地区）	第1 トレンチ全景（東）
	2. 石塚遺跡（宮脇地区）	第2 トレンチ全景（北）
	3. 大滝芋田遺跡（圃場整備地区）	第3 トレンチ全景（南）
図版13	遺構写真 大滝遺跡・大滝島田遺跡・瑞龍寺遺跡	
	1. 大滝遺跡（圃場整備地区）	第1 トレンチ全景（南）
	2. 大滝島田遺跡（圃場整備地区）	第3 トレンチ全景（南）
	3. 瑞龍寺遺跡（松下地区）	第1 トレンチ全景（西）
図版14	遺構写真 瑞龍寺遺跡・越中国府関連遺跡	
	1. 瑞龍寺遺跡（田島地区）	第1 トレンチ全景（東）
	2. 瑞龍寺遺跡（田島地区）	第4 トレンチ全景（東）
	3. 越中国府関連遺跡（山下地区）	第1 トレンチ全景（東）
図版15	遺構写真 蓮花寺遺跡・麻生谷遺跡・麻生谷新生園遺跡	
	1. 蓮花寺遺跡（畑地区）	第1 トレンチ全景（北）
	2. 麻生谷遺跡（圃場整備地区）	第6-5 トレンチ全景（南）
	3. 麻生谷新生園遺跡（圃場整備地区）	第2-6 トレンチ全景（北）
図版16	遺構写真 中曾根西遺跡	
	1. 中曾根西遺跡（圃場整備地区）	第1 トレンチ全景（東）
	2. 中曾根西遺跡（圃場整備地区）	第4 トレンチ全景（東）
	3. 中曾根西遺跡（圃場整備地区）	第7 トレンチ全景（東）

## 第1章 遺跡の位置と歴史的環境

高岡市は富山県の西部に位置し、県内第2位の人口を擁する。市域は東西約24.5km、南北約19.2kmに及び、その面積は富山県域の約5%にあたる209.38km<sup>2</sup>を呈する。

地形的には山間部のほか、丘陵部や平野部から成り、北部では日本海の富山湾に面する。平野部は北陸有数の較倉地帯を形成し、古くから舟運や海運の発達を促しうる地勢を有した地域といえる。

市内には庄川と小矢部川が所在する。高岡の平野部はこの2大河川による複合的な扇状地で形成されているが、小矢部川左岸では西山丘陵とよばれる標高300mに満たない丘陵がつらなり、能登半島の宝達山を主峰とする山間部に繋がっている。

現在、高岡市では341箇所の遺跡が周知されており、その分布状況は、山間部のほか丘陵部や平野部に大別できる。山間部では旧石器時代の遺跡が点在し、縄文時代の遺跡も谷あいの平坦地などで確認されている。丘陵部には古墳群や中世城館などが密集する。また、古代の北陸道は西山丘陵の山麓線沿いにはしっていたとされる。

平野部には、弥生時代を主体とする集落遺跡として県内有数の規模を誇る石塚遺跡や下老子笹川遺跡、古代における官衙的な遺跡とされる東木津遺跡や中保B遺跡、中世の木舟城の城下町遺跡である石名田木舟遺跡など、県内の考古学研究史を語るうえでも欠かすことのできない遺跡が集中している。

須田藤の木遺跡は、北に西山丘陵がそびえ、南に小矢部川が流れる平野部に位置する。今回の調査では、掘立柱建物や数多くの土坑が検出され、古代の土師器や須恵器等が出土した。過去の調査で検出された遺構群が東側まで広がることが判明し、周辺の歴史環境を把握する手がかりとなる良好な資料を得られた。

- |  |                       |
|--|-----------------------|
| ① 江尻C遺跡（館地区）   | ⑪ 須田藤の木遺跡（ローソン地区）     |
| ② 越中国府閔連遺跡（岩城地区、高寺地区、藤田地区、岩田地区、座谷地区、鶴川地区、北村地区、佐藤地区、マルシン地区、折井地区、山下地区） | ⑫ 東保石坂遺跡（圃場整備地区）      |
| ③ 瑞穂町遺跡（増山地区、澤田地区）   | ⑬ 中保B遺跡（朴木地区、大井地区）    |
| ④ 上野A遺跡（石浦地区）  | ⑭ 井口本江遺跡（大阪屋ショッピング地区） |
| ⑤ 瑞龍寺遺跡（宮原地区、松下地区、田島地区）  | ⑮ 泉ヶ丘遺跡（森田地区）         |
| ⑥ 下老子笹川遺跡（奥村地区）  | ⑯ 石塚遺跡（宮脇地区）          |
| ⑦ 上二上遺跡（黒木地区）  | ⑰ 大滝芋田遺跡（圃場整備地区）      |
| ⑧ 東木津遺跡（市道地区、西本地区）   | ⑱ 大滝島田遺跡（圃場整備地区）      |
| ⑨ 波岡南遺跡（浦島地区）  | ⑲ 蓮花寺遺跡（畠地区）          |
| ⑩ 間尽遺跡（四十九地区）  | ⑳ 麻生谷遺跡（圃場整備地区）       |
|  | ㉑ 麻生谷新生園遺跡（圃場整備地区）    |
|  | ㉒ 中曾根西遺跡（圃場整備地区）      |



第1図 調査位置図

試掘調查

第1表 平成29年度の遺跡調査一覧

No	遺跡名	読み方	所在地	時代	種別	現状
1	江尻C遺跡	えじりしーいせき	江尻	古代～中世	集落	畠・更地 宅地・更地
2	越中国府閥連遺跡	えつちゅうふくわんれんいせき	伏木	古代・中世	官衙	水田・更地
3	瑞穂町遺跡	みずほまちいせき	瑞穂町	発生～古墳	散布地	水田・更地
4	上野A遺跡	うわのえーいせき	上野	備文前期～中期・発生・古墳・古代	集落	宅地
5	瑞龍寺遺跡	ずいりゆうじいせき	関本町	近世	寺院	畠・宅地・更地
6	下老子世川遺跡	しもおいこさかがいせき	福圓町下老子	備文晚期・発生・古墳・古代～中世	集落	更地
7	上二上遺跡	かみふたがいせき	二上	発生～近世	散布地	更地
8	東木津遺跡	ひがしきついせき	木津	発生～近世	集落・官衙	水田・宅地・更地
9	波岡南遺跡	はおかみなみいせき	波岡	古墳～中世	散布地	水田
10	間尺遺跡	まづくいせき	手洗野・與川	備文～近世	官衙	畠・烟
11	須田藤の木遺跡	すだふじのきいせき	五十里東町	古代・中世	官衙	烟
12	東京石板遺跡	とうきょうせきばいせき	今泉	備文中期・奈良～鎌倉	散布地	水田
13	中保B遺跡	なかほびーいせき	中保	備文晚期・発生～中世	集落・官衙	畠
14	井口本江遺跡	いぐちほんごういせき	井口本江	奈良～平安	集落	水田
15	泉ヶ丘遺跡	いずみがおかいせき	泉ヶ丘	備文晚期・中世	散布地	宅地
16	石冢遺跡	いしづみがおかいせき	石冢・和田・上北島	備文晚期・発生～近世	集落	畠
17	大滝宇田遺跡	おおたきいもだいいせき	大滝	古代・中世・近世	散布地	水田
18	大滝遺跡	おおたきいせき	大滝	古墳・古代・中世・近世	散布地	水田
19	大滝島田遺跡	おおたきしまだいいせき	大滝	中世・近世	散布地	水田
20	蓮花寺遺跡	れんげじいせき	蓮花寺	平安～中世	散布地	水田
21	麻生谷遺跡	あそうやいせき	麻生谷	古墳～中世	集落	水田
22	麻生谷新牛園遺跡	あそうやしんしんせいんいせき	麻生谷	備文・古墳～中世	集落	水田
23	中曾根西遺跡	なかねにしこねにいせき	中曾根	発生～中世	集落	水田

## 1. 江尻C遺跡（館地区）

所 在 地	高岡市江尻白山町 10番、11番
調査期間	平成 29年 4月 27日
対象面積	231.55 m <sup>2</sup>
試掘坑	2本
発掘面積	約 8.00 m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第2図 江尻C遺跡（館地区）調査区位置図

### 調査概要

本地点は遺跡の西側に位置する。平成 27 年度に試掘調査を実施した本地点東側の東野地区では、地表面下 40 ~ 50cm、標高約 5.4 ~ 5.5m 付近で地山を確認し、遺構は土坑 1 基、溝 2 条が検出され、遺物は弥生土器（高杯等）、古墳土器等が出土した。

調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、対象地東側に設定した第 1 トレンチで地表面下約 120cm、標高約 5.5m 付近で褐色砂層の地山を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。

対象地西側に設定した第 2 トレンチでは、地表面下約 115cm、標高約 5.5m 付近まで掘り下げたが、宅地造成の山砂と耕作土と推測される土層（暗褐色シルト）が見られることから、地山は東から西にかけて傾斜していると考えられる。

## 2. 越中国府関連遺跡（岩城地区）

所 在 地	高岡市伏木吉府三丁目 19-2、19-3
調査期間	平成 29年 5月 10日
対象面積	579.37 m <sup>2</sup>
試掘坑	2本
発掘面積	約 5.00 m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第3図 越中国府関連遺跡（岩城地区）調査区位置図

### 調査概要

本地点は遺跡の西側に位置する。平成 21 年度に試掘調査を実施した本地点東隣の岩城地区では、遺構・遺物は検出されていない。

調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 90cm、標高約 25.1 m まで掘り下げたが、近現代の造成土が厚く堆積していた。また、近現代の造成土の中に遺物は含まれていなかった。

本地点の旧地形は、谷地形であったと考えられる。

### 3. 越中国府関連遺跡（高寺地区）

所 在 地	高岡市伏木一宮 2 丁目 506-2、507、508
調査期間	平成 29 年 5 月 12 日
対象面積	191.23 m <sup>2</sup>
試掘坑	2 本
発掘面積	約 6.25 m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第 4 図 越中国府関連遺跡（高寺地区）調査区位置図

#### 調査概要

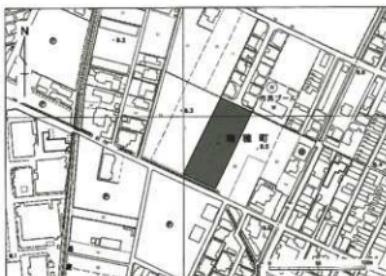
本地点は遺跡の西側に位置する。平成元年に本発掘調査を実施した本地点南西側の向地区では、遺構上部は削平を受けるが、基盤層（地山）上で古代・中世の 2 時期に大別される遺構群が検出され、遺物も同時期のものが出土した。

調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 70 ~ 90cm、標高約 25.1 ~ 25.2m 付近で礫まじりの褐色砂質土の地山を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。

掘削深度から、対象地は斜面を造成により削平された場所であると考えられ、本地点南西側で確認された遺構・遺物は本地点まで広がらないと考えられる。

### 4. 瑞穂町遺跡（増山地区）

所 在 地	高岡市瑞穂町 149-1
調査期間	平成 29 年 5 月 16 ~ 19 日、24 日、6 月 1、 2 日、6 ~ 8 日
対象面積	3,200 m <sup>2</sup>
試掘坑	5 本
発掘面積	約 409.40 m <sup>2</sup>
調査原因	土地造成
検出遺構	土坑 10 基、溝 10 条
出土遺物	弥生土器、古墳土師器、古代須恵器、 中世珠洲、近世陶磁器、時期不明土師器



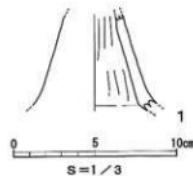
第 5 図 瑞穂町遺跡（増山地区）調査区位置図

#### 調査概要

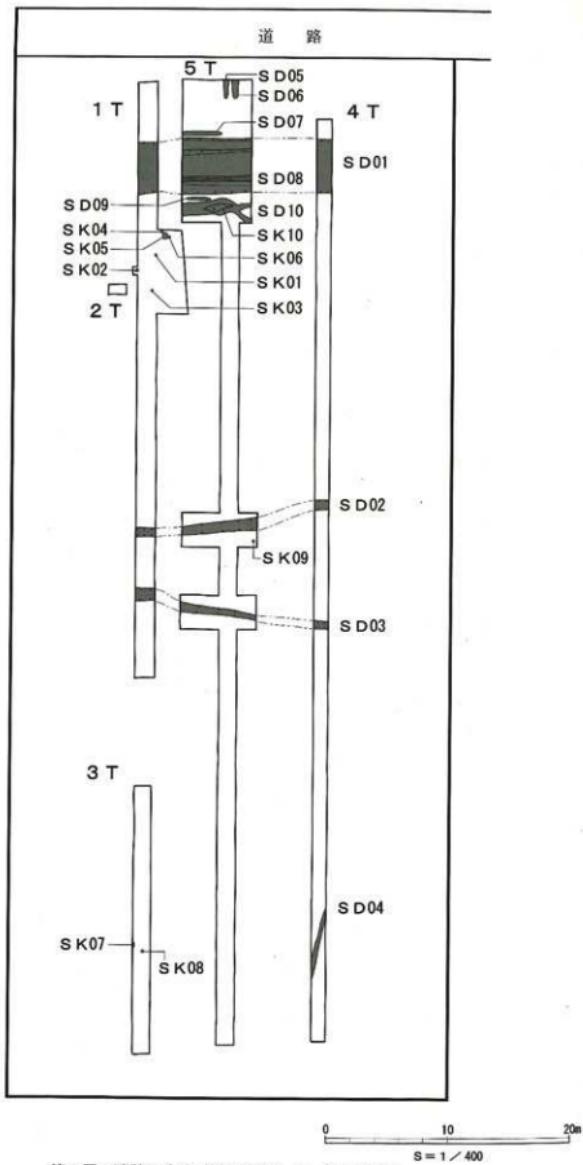
本地点は遺跡の中央に位置する。平成 14 年度に試掘調査を実施した本地点東側の大和ハウス工業地区では、東西軸の溝が検出され、出土遺物から飛鳥時代と想定されている。平成 21 年度に試掘調査を実施した本地点東側の仲宗根地区、海瀬地区では、南北軸の溝が検出され、古墳時代後期土師器が出土した。

試掘調査は対象地に試掘坑を 5 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 20 ~ 35cm、標高約 8.1 ~ 8.3m 付近で黄褐色砂質土の地山を確認した。遺構は溝 10 条、土坑 10 基が検出され、遺物は弥生土器、古墳土師器、古代須恵器、中世珠洲、近世陶磁器、時期不明土師器が出土した。

出土遺物のうち一部を図示した。1 は古墳土師器の高杯脚部である。第 6 図 瑞穂町遺跡（増山地区）遺物実測図



N



第7図 瑞穂町遺跡（増山地区）トレンチ配置図

## 5. 上野A遺跡（石浦地区）

所 在 地	高岡市福岡町上野 85 番の一部
調査期間	平成 29 年 5 月 19 日
対象面積	883.03 m <sup>2</sup>
試掘坑	3 本
発掘面積	約 21.45 m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	縄文土器、古代須恵器



第8図 上野A遺跡（石浦地区）調査区位置図

### 調査概要

本地点は遺跡の東側に位置する。本遺跡は、小矢部川左岸に形成された標高約 30 m の台地上に所在する。平成 13 年度に本発掘調査を実施した本地点北西側の町道上野西線道路改良工事地区では、縄文時代前期を中心とする遺構・遺物が検出され、遺跡本体の集落域が台地上に広がると推測されている。

調査は対象地に試掘坑を 3 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、対象地北側で地表面下約 40 cm、標高約 27.9 m 付近で黄褐色砂質土の地山を確認した。遺構は検出されず、遺物は縄文土器、古代須恵器が出土した。

対象地南側では、地表面下約 40 cm、標高約 27.5 m 付近まで掘り下げても地山を確認できなかったため、地山は北から南にかけて傾斜し、標高が低い場所へ遺物が流れ込んでいると考えられる。

## 6. 瑞龍寺遺跡（宮原地区）

所 在 地	高岡市蓬美町 529 番 3
調査期間	平成 29 年 5 月 31 日
対象面積	428.14 m <sup>2</sup>
試掘坑	3 本
発掘面積	約 12.60 m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第9図 瑞龍寺遺跡（宮原地区）調査区位置図

### 調査概要

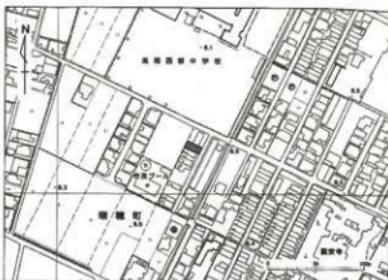
本地点は遺跡の北西端に位置する。平成 28 年度に本発掘調査を実施した本地点南側の早借地区では、近世の瓦溜りが確認されている。また、近世の絵図等から瑞龍寺の外堀の痕跡が想定されている。

調査は対象地に試掘坑を 3 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、対象地東側で地表面下約 110 cm、標高約 7.5 m 付近で灰色砂の地山を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。

対象地西側では、地表面下約 110 cm、標高約 6.9 m 付近まで掘り下げても地山は検出されなかったため、地山は東から西にかけて傾斜していると考えられる。

## 7. 瑞穂町遺跡（澤田地区）

所 在 地	高岡市瑞穂町 156 番 6、156 番 18
調査期間	平成 29 年 6 月 13 日
対象面積	161.76 m <sup>2</sup>
試掘坑	3 本
発掘面積	約 5.94 m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第 10 図 瑞穂町遺跡（澤田地区）調査区位置図

### 調査概要

本地点は遺跡の北東に位置する。平成 21 年度に試掘調査を実施した本地点南側の仲宗根地区・海瀬地区では、南北軸の構が検出され、古墳時代後期土師器が出土した。

調査は対象地に試掘坑を 3 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 70 ~ 90cm、標高約 7.7 ~ 7.9m 付近で灰褐色シルトおよび灰色シルトの地山を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。

## 8. 越中国府関連遺跡（藤田地区）

所 在 地	高岡市伏木古府 2 丁目 286 番
調査期間	平成 29 年 7 月 11 日
対象面積	151.88 m <sup>2</sup>
試掘坑	1 本
発掘面積	約 9.90 m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	古代土師器（杯 A・甕・煮炊具）、古代須恵器（甕・蓋）中世土師器（皿）、時期不明土師器片



第 11 図 越中国府関連遺跡（藤田地区）調査区位置図

### 調査概要

本地点は遺跡の中央に位置する。周辺における既往の調査で遺構・遺物は検出されていない。

調査は対象地に試掘坑を 1 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、トレンチ東側で地表面下約 145cm、標高約 14.3m 付近で明褐色粘質土の地山を確認した。遺構は検出されず、遺物は古代土師器（杯 A・甕・煮炊具）、古代須恵器（甕・蓋）中世土師器（皿）、時期不明土師器片、が出土した。

トレンチ西側では地表面下約 170cm、標高約 14.0m 付近まで掘り下げても地山を確認できなかつたことから、地山は東から西にかけて傾斜していると考えられる。

この一帯は「塙」という字名が残っており、等高線が北の赤坂谷へ向かって下がる傾斜地である。国府推定地である勝興寺境内にも近く、遺物出土量から考えると、周囲に遺構が存在する可能性がある。

## 9. 越中国府関連遺跡（岩田地区）

所 在 地	高岡市伏木古府元町 488 番 6、488 番 9
調査期間	平成 29 年 7 月 27 日
対象面積	328.21 m <sup>2</sup>
試掘坑	2 本
発掘面積	約 14.20 m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第 12 図 越中国府関連遺跡（岩田地区）調査区位置図

### 調査概要

本地点は遺跡の西側に位置する。平成 28 年度に試掘調査を実施した本地点北側の山田地区では、地山は確認されず、遺構・遺物は検出されていない。

調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 30 ~ 35cm、標高約 35.1m 付近で黄褐色シルト及び白色シルトの地山を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。

## 10. 越中国府関連遺跡（座谷地区）

所 在 地	高岡市伏木古府 3 丁目 25 番 2
調査期間	平成 29 年 8 月 10 日
対象面積	330.74 m <sup>2</sup>
試掘坑	2 本
発掘面積	約 21.00 m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第 13 図 越中国府関連遺跡（座谷地区）調査区位置図

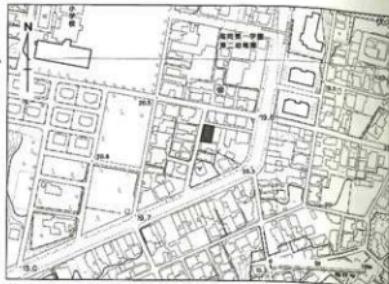
### 調査概要

本地点は遺跡の中央に位置する。平成 16 年度に本発掘調査を実施した本地点北側の西村地区では、遺構は溝状遺構が検出され、遺物は古代須恵器が出土した。

調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 50cm、標高約 23.7m 付近で礫混じりの黄褐色砂質土の地山を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。

## 11. 越中国府関連遺跡（鵜川地区）

所 在 地	高岡市伏木矢田上町 194 番 10, 194 番 50, 194 番 45, 194 番 46
調 査 期 間	平成 29 年 8 月 22 日
対 象 面 積	196.62 m <sup>2</sup>
試 挖 坑	2 本
発 挖 面 積	約 13.50 m <sup>2</sup>
調 査 原 因	個人住宅建設
検 出 遺 構	なし
出 土 遺 物	なし



第 14 図 越中国府関連遺跡（鵜川地区）調査区位置図

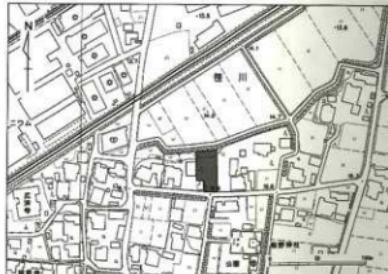
### 調査概要

本地点は遺跡の南側に位置する。平成 27 年度に試掘調査を実施した本地点南西側の健美福社会地区、市営住宅地区では、遺構は溝が検出され、遺物は古代土師器、古代須恵器等が出土した。

調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 40 ~ 60cm、標高約 19.4 ~ 19.5m 付近で灰色シルトの地山を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。

## 12. 下老子笹川遺跡（奥村地区）

所 在 地	高岡市笹川 61 番、62 番 1
調 査 期 間	平成 29 年 8 月 29 日
対 象 面 積	1,083.12 m <sup>2</sup>
試 挖 坑	3 本
発 挖 面 積	約 18.50 m <sup>2</sup>
調 査 原 因	個人住宅建設
検 出 遺 構	なし
出 土 遺 物	近世瀬戸（椀）、近世越中瀬戸（天目茶碗）



第 15 図 下老子笹川遺跡（奥村地区）調査区位置図

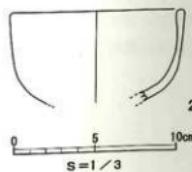
### 調査概要

本地点は遺跡の北側に位置する。本地点南側では、平成 7 ~ 10 年度の能越自動車道路建設と平成 20 ~ 21 年度の北陸新幹線建設に伴う本発掘調査で、縄文時代晚期から近代にかけての集落が確認されている。特に、弥生時代中期から終末期にかけての玉作を伴う集落が発見されたことで有名である。本地点周辺での調査は実施されていない。

調査は対象地に試掘坑を 3 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 40 ~ 75cm、標高約 15.7 ~ 16.1m 付近で灰色砂質土の地山を確認した。遺構は検出されなかったが、遺物は近世瀬戸（椀）、近世越中瀬戸（天目茶碗）が出土した。

本地点の地山は南から北にかけて傾斜し、本地点北側の地山は川原石を主体とする砂疊層であることから、本地点は旧河川であった可能性が考えられる。

出土遺物のうち一部を図示した。2 は近世越中瀬戸の天目茶碗 第 16 図 下老子笹川遺跡（奥村地区）遺物実測図である。



### 13. 越中国府関連遺跡（北村地区）

所 在 地	高岡市伏木東一宮 1227 番 1
調査期間	平成 29 年 9 月 5 日
対象面積	232.716 m <sup>2</sup>
試掘坑	2 本
発掘面積	約 7.30 m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第 17 図 越中国府関連遺跡（北村地区）調査区位置図

#### 調査概要

本地点は遺跡の中央に位置する。平成 26 年度に試掘調査を実施した本地点北西側のマルワハウス地区では、遺構は土坑 1 基が検出され、遺物は古代土師器、古代須恵器等が出土した。

調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 190cm、標高約 1.0m 付近まで掘り下げる黒褐色及び灰褐色土層の堆積を確認したのみであった。遺構・遺物は検出されなかった。

隣接地の佐藤地区では、一部青灰色疊層の地山が確認されているが、本地点では見られないことから、本地点は、地山が伏木小学校付近の高台から南にかけて傾斜し、谷地形の谷底に近い部分を検出したと考えられる。

### 14. 越中国府関連遺跡（佐藤地区）

所 在 地	高岡市伏木東一宮 1227 番地 2
調査期間	平成 29 年 9 月 5 日
対象面積	108.11 m <sup>2</sup>
試掘坑	2 本
発掘面積	約 8.40 m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第 18 図 越中国府関連遺跡（佐藤地区）調査区位置図

#### 調査概要

本地点は遺跡の中央に位置する。平成 26 年度に試掘調査を実施した本地点北西側のマルワハウス地区では、遺構は土坑 1 基が検出され、遺物は古代土師器、古代須恵器等が出土した。

調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 155cm、標高約 1.5m 付近で青灰色疊層の地山を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。

対象地南側では、地表面下約 175cm、標高約 0.8m 付近まで掘り下げても地山を確認できなかったことから、地山は北から南にかけて傾斜し、隣接する北村地区と同様に、谷地形の谷底に近い部分を検出したと考えられる。

## 15. 上二上遺跡（黒木地区）

所 在 地	高岡市二上町 705 番
調査期間	平成 29 年 9 月 8 日
対象面積	342.53 m <sup>2</sup>
試掘坑	1 本
発掘面積	約 14.80 m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第 19 図 上二上遺跡（黒木地区）調査区位置図

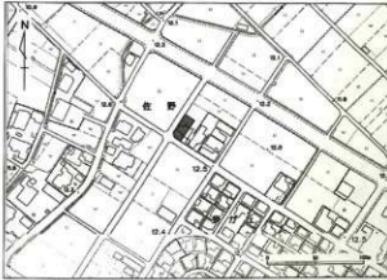
### 調査概要

本地点は遺跡の東側に位置する。平成 24 年度に試掘調査を実施した本地点東側の村上地区では、遺構は土坑 1 基、溝 4 条等が検出されたが、時期は不明である。

調査は対象地に試掘坑を 1 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、第 1 トレンチ南側の地表面下約 130cm、標高約 3.5m 付近で褐色砂質土の地山を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。

## 16. 東木津遺跡（市道地区）

所 在 地	高岡市泉が丘 859 番地 6
調査期間	平成 29 年 9 月 15 日
対象面積	200 m <sup>2</sup>
試掘坑	2 本
発掘面積	約 4.50 m <sup>2</sup>
調査原因	道路改良工事
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第 20 図 東木津遺跡（市道地区）調査区位置図

### 調査概要

本地点は遺跡の西側に位置する。平成 14 ~ 15 年度に本発掘調査を実施した本地点西側の田中医院地区では、遺構は掘立柱建物や道路遺構等が検出され、遺物は土師器、須恵器、墨書き器等が出土した。遺物の時期は 8 世紀後半から 9 世紀前半が中心である。また本地点北側で平成 28 年度に試掘調査を実施したが、遺構・遺物は検出されなかった。

調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 90cm、標高約 11.7m 付近で灰色シルトの地山を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。田中医院地区で検出された遺構群は東側へ広がらないものと考えられる。

## 17. 波岡南遺跡（浦島地区）

所 在 地	高岡市波岡 135
調査期間	平成 29 年 9 月 22 日
対象面積	350 m <sup>2</sup>
試掘坑	2 本
発掘面積	約 16.00 m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第 21 図 波岡南遺跡（浦島地区）調査区位置図

### 調査概要

本地点は遺跡の西側に位置する。平成 15 年度に試掘調査を実施した本地点東側の加藤地区では、遺構は土坑、溝が検出され、遺物は古代須恵器が出土した。

調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 65 ~ 115cm、標高約 5.1 ~ 5.6m、付近で青灰色シルトの地山を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。

調査結果より、加藤地区で検出された遺構・遺物の広がりはないと考えられる。

## 18. 越中国府関連遺跡（マルシン地区）

所 在 地	高岡市伏木一宮一丁目 9 番 12 号
調査期間	平成 29 年 9 月 29 日
対象面積	219 m <sup>2</sup>
試掘坑	1 本
発掘面積	約 11.33 m <sup>2</sup>
調査原因	駐車場造成
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第 22 図 越中国府関連遺跡（マルシン地区）調査区位置図

### 調査概要

本地点は遺跡の西側、中央台地上に位置する。平成 25 年度に試掘調査を実施した本地点南側の奥村地区では、遺構は南北軸の大溝が検出され、遺物は古代瓦や古代～中世の土器類等が出土した。

調査は対象地に試掘坑を 1 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 100cm、標高約 21.5m 付近で灰色シルトの地山を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。

## 19. 東木津遺跡（西本地区）

所 在 地	高岡市佐野 859 番 3、859 番 6、859 番 7
調査期間	平成 29 年 10 月 3 日
対象面積	142.24 m <sup>2</sup>
試掘坑	1 本
発掘面積	約 6.48 m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第 23 図 東木津遺跡（西本地区）調査区位置図

### 調査概要

本地点は遺跡の西側に位置する。平成 14 ~ 15 年度に本発掘調査を実施した本地点西側の田中医院地区では、遺構は掘立柱建物や道路遺構等が検出され、遺物は古代土器類、古代須恵器、墨書き器等が出土した。遺物の時期は 8 世紀後半から 9 世紀前半が中心とされる。また本地点北側では、平成 28 年度に試掘調査を実施したが遺構・遺物は検出されなかった。

調査は対象地に試掘坑を 1 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 115cm、標高約 11.4m 付近で灰色シルトの地山を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。

## 20. 間尽遺跡（四十九地区）

所 在 地	高岡市手洗野字平田 1292-1、1293-1、 1294-1、1295-1、1298-1、1299-1、1300-1
調査期間	平成 29 年 10 月 12 ~ 13 日
対象面積	499.79 m <sup>2</sup>
試掘坑	2 本
発掘面積	約 38.75 m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	土坑 2 基
出土遺物	古代土器類、古代須恵器（杯 A・甌）



第 24 図 間尽遺跡（四十九地区）調査区位置図

### 調査概要

本地点は遺跡の西側に位置する。本地点西隣で実施した平成 13 ~ 14 年度の本発掘調査では、古代～中世にかけての掘立柱建物、区画溝等の遺構が検出され、遺物は古代～中世の土器類・白磁・青磁・子持勾玉などが出土した。

調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 120 ~ 130cm、標高約 11.6 ~ 11.7m 付近で灰褐色砂質土の地山を確認した。遺構は土坑 2 基が検出され、遺物は古代土器類、古代須恵器（杯 A・甌）が出土した。

本地点西隣の本発掘調査で確認された遺構群は本地点まで広がることを確認した。また本地点で検出された土坑は柱穴の可能性がある。

## 21. 須田藤の木遺跡（ローソン地区）

所 在 地 高岡市五十里 1935-1 ほか  
 調査期間 平成 29 年 10 月 24 日、26 ~ 27 日、31 日、11 月 1 ~ 2 日  
 対象面積 2,996 m<sup>2</sup>  
 試掘坑 5 本  
 発掘面積 約 158.45 m<sup>2</sup>  
 調査原因 店舗建設  
 検出遺構 堀立柱建物 1 棟、土坑 11 基、溝 2 条  
 出土遺物 弥生土器、古墳土師器、古代土師器、古代須恵器、中世土師器、時期不明土師器

### 調査概要

本地点は遺跡の西側に位置する。本遺跡は東大寺領須加莊の比定地の一つとされている。本地点南側で実施した昭和 45 年度の本発掘調査では、遺構は堀立柱建物、大溝等が検出され、遺物は古墳土師器、古墳須恵器、古代土師器等が出土した。本地点西側で実施した平成 11 年度の本発掘調査では、遺構は堀立柱建物、土坑、溝、斂状遺構等が検出され、遺物は古代土師器、陶磁器類、木簡、古代金属製品が出土し、官衙的な遺跡の傾向が見られる。

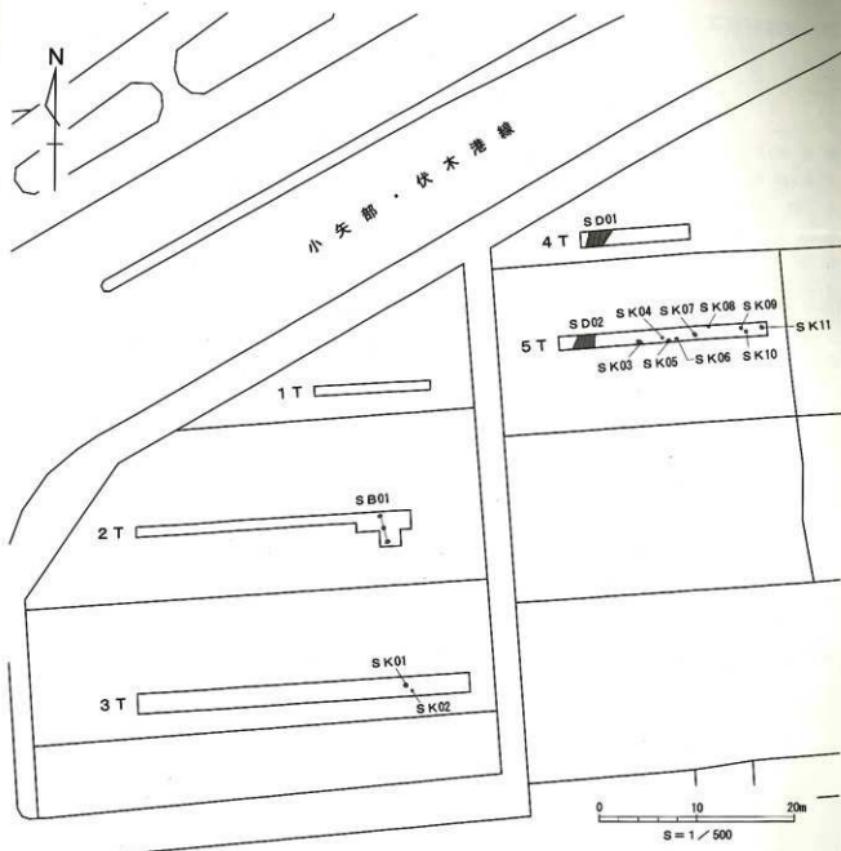
調査は対象地に試掘坑を 5 個所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 30 ~ 50cm、標高約 7.9 ~ 8.1m 付近で黄褐色シルト及び灰褐色シルトの地山を確認した。遺構は堀立柱建物 1 棟、土坑 11 基、溝 2 条が検出され、遺物は弥生土器、古墳土師器、古代須恵器、古代土師器、中世土師器、時期不明土師器が出土した。

調査結果から、堀立柱建物を含めた遺構が広範囲に分布し、対象地全域に地表面下約 30 ~ 50cm 付近で遺物包含層が拡がることを確認した。また、対象地西側には遺物包含層の下に 2 層の遺構検出面が認められ、黒色シルトを検出面とする第 1 検出面と、その下層に黄褐色シルトおよび灰褐色シルトの第 2 検出面が認められる。遺構面は部分的に 2 面存在すると考えられる。

出土遺物のうち一部を図示した。3 は弥生土器の短頸壺である。4 は古代須恵器の杯 A である。5、6 は古代土師器である。5 は長脣甕、6 は杯 A である。



第 25 図 須田藤の木遺跡（ローソン地区）調査区位置図



第26図 須田藤の木遺跡（ローソン地区）トレンチ配置図



第27図 須田藤の木遺跡（ローソン地区）遺物実測図

## 22. 東保石坂遺跡（圃場整備地区）

所 在 地	高岡市今泉 332-1、333、334-1、398-1、399、400、401-1、402-1、403、404、405-1
調査期間	平成 29 年 11 月 7 日、9 ~ 10 日、13 日
対象面積	19,430 m <sup>2</sup>
試掘坑	5 本
発掘面積	約 87.54 m <sup>2</sup>
調査原因	圃場整備
検出遺構	溝 2 条
出土遺物	縄文土器（甕・深鉢）、弥生土器（甕）他



第 28 図 東保石坂遺跡（圃場整備地区）調査区位置図

### 調査概要

本地点は遺跡の北半分に位置する。本遺跡は芹谷野段丘崖下の庄川扇状地に所在し、遺跡南半分の範囲は砺波市に広がる。平成 10 年度の分布調査で、縄文時代中期と奈良時代以降に及ぶ複合遺跡として報告されているが、発掘調査は実施されていない。また、本地点周辺は古代石糞莊の比定地と考えられている（金田 1998）。

調査は対象地に試掘坑を 5 個所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 100 ~ 115cm、標高約 34.2m 付近で黄褐色砂質土の地山を確認した。遺構は溝 2 条が検出され、遺物は縄文土器、弥生土器が出土した。

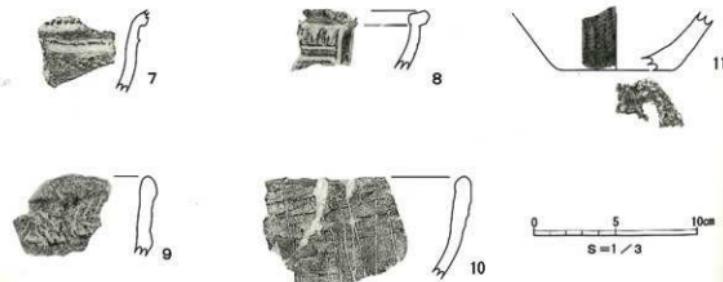
基本層序は、I 層 = 表土、II 層 = 灰褐色シルト、III 層 = 黒色シルト・黒褐色粘質土（遺物包含層、遺構検出面）、IV 層 = 暗褐色砂、V 層 = 黄褐色砂質土（地山）である。

III 層（遺物包含層）は、地表面下約 65 cm、標高約 34.8 m 付近で約 30 ~ 40 cm 堆積していた。また、III 層上面では、挙大の礫が詰まつた溝を 2 条検出した。埋土に遺物が伴わなかったため時期は不明である。

地理的環境において本遺跡と類似する砺波市の徳万頃成遺跡では、古代・中世の遺構面下に縄文時代中期の堅穴建物が検出されており、縄文時代中期の人々が台地・丘陵部だけでなく平野部でも生活の痕跡を残していることが明らかとなっている（富山県文化振興財団 2016）。今回の調査でも縄文時代中期と考えられている縄文土器が出土していることから、本地点周辺での縄文時代の土地利用については今後も注意しながら調査する必要がある。

第 2 表 東保石坂遺跡（圃場整備地区）出土縄文土器一覧

捕獲番号	遺物番号	器種	形態		時期	備考
			口縁	底部		
29	7	深鉢	内湾平縁	—	前期未葉	
	8	深鉢	内湾平縁	—	中期前葉（新崎式）	口縁部付近に蓮華状文
	9	深鉢	波状口縁	—	中期後葉（串田新式）	口縁部付近に葉脈状文
	10	深鉢	平縁口縁	—	中期後葉～後期初頭（串田新式）	縦位の沈線を不規則に施す
	11	深鉢	—	平底	中期	底部に斜～縱位の縄文を押圧 底面に笠葉压痕



第 29 図 東保石坂遺跡（圃場整備地区）遺物実測図

### 23. 中保B遺跡（朴木地区・大井地区）

	(朴木地区)	(大井地区)
所 在 地	高岡市中保 1312 番 3	1312 番 4
調査期間	平成 29 年 12 月 15 日	12 月 15 日
対象面積	264 m <sup>2</sup>	216 m <sup>2</sup>
試掘坑	1 本	1 本
発掘面積	約 19.80 m <sup>2</sup>	約 16.20 m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建設	個人住宅建設
検出遺構	なし	なし
出土遺物	なし	なし



第30図 中保B遺跡（朴木地区・大井地区）調査区位置図

#### 調査概要

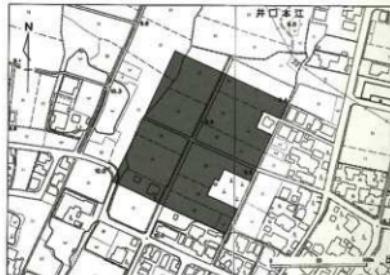
本地点は遺跡の中央に位置する。本地点南側で実施した平成 8 ~ 11 年度の本発掘調査では、遺構は掘立柱建物群や船着場遺構が検出され、遺物は古代の土器類・帶金具・石器等、古代地方官衙遺跡に特徴的な遺物が出土した。また本地点南西側で平成 22 年度に試掘調査を実施したが、遺構・遺物は検出されなかった。

朴木地区では、対象地に試掘坑を 1 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 80 ~ 90cm、標高約 12.1 ~ 12.2m 付近で、灰色砂の地山を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。

大井地区では、対象地に試掘坑を 1 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 80 ~ 90cm、標高約 12.1 ~ 12.2m 付近で、灰色砂の地山を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。

### 24. 井口本江遺跡（大阪屋ショップ地区）

所 在 地	高岡市出来田 266-1 他 42 箇
調査期間	平成 29 年 11 月 28 ~ 30 日、12 月 1、4、7 日、14 ~ 15 日、20 ~ 22 日、26 日、平成 30 年 2 月 27 ~ 28 日
対象面積	17,956.76 m <sup>2</sup>
試掘坑	19 本
発掘面積	約 834.05 m <sup>2</sup>
調査原因	土地造成、店舗建設
検出遺構	土坑 6 基、溝 7 条
出土遺物	縄文土器、弥生土器、古代土器、古代須恵器、中世土器、中世珠洲、近世陶磁器、時期不明土器



第31図 井口本江遺跡（大阪屋ショップ地区）調査区位置図

#### 調査概要

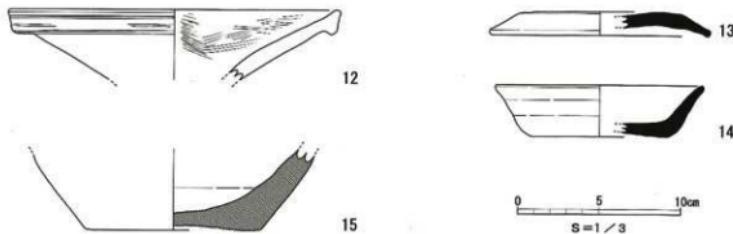
本地点は遺跡の南東に位置する。本地点西隣で実施された平成 20 年度の富山県文化振興財団による本発掘調査では、縄文時代晩期から近世に及ぶ遺構・遺物が検出された。特に本地点周辺では、弥生時代・古代～中世の遺構・遺物が検出され、微高地上に集落の存在が推定される。

調査は対象地に試掘坑を 19 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 25 ~ 65cm、標高約 8.6 ~ 9.0m 付近で黄褐色粘質土及び青灰色粘質土の地山を確認した。遺構は土坑 6 基、溝 7 条が検出され、遺物は縄文土器、弥生土器、古代土器、古代須恵器、中世土器、中世珠洲、近世陶磁器、時期不明土器が出土した。



第32図 井口本江遺跡（大阪屋ショッピング地区）トレンチ配置図

対象地南側は、本発掘調査で検出された遺構の拡がりは確認できないが、地山直上に黒褐色シルトの遺物包含層が拡がることを確認した。また、地山が西から東にかけて下がり、再び本発掘調査区の東端から高くなる様子を確認した。さらに、対象地南東周辺は地山の標高が高く、地表面下約25～35cm、標高約8.9m付近で遺構が検出された。出土遺物のうち一部を図示した。12は弥生土器の有段器台である。13、14は古代須恵器である。13は蓋、14は杯Aである。15は中世株洲のすり鉢である。



第33図 井口本江遺跡（大阪屋ショッピング地区）遺物実測図

## 25. 越中国府関連遺跡（折井地区）

所 在 地	高岡市伏木古府二丁目158番、159番
調 査 期 間	平成30年2月9日
対 象 面 積	156.82 m <sup>2</sup>
試 挖 坑	2本
発 挖 面 積	約4.75 m <sup>2</sup>
調 査 原 因	個人住宅建設
検 出 遺 構	なし
出 土 遺 物	なし



第34図 越中国府関連遺跡（折井地区）調査区位置図

### 調査概要

本地点は遺跡の東側の谷部に位置する。本地点北東の台地上には御亭角廃寺が立地したと考えられ、白鳳期の瓦や古墳時代～古代、近世の遺構・遺物が検出された。

調査は対象地に試掘坑を2箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約110～120cm、標高約2.2～2.5m付近で青灰色粘質土の地山を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。

## 26. 泉ヶ丘遺跡（森田地区）

所 在 地	高岡市泉が丘 3300 番 73
調 査 期 間	平成 30 年 2 月 2 日
対 象 面 積	251.93 m <sup>2</sup>
試 挖 坑	2 本
発 挖 面 積	約 5.25 m <sup>2</sup>
調 査 原 因	個人住宅建設
検 出 遺 構	土坑 1 基
出 土 遺 物	古代須恵器（壺・瓶類）中世土師器（皿）、 時期不明土製品（ふいご羽口）



第 35 図 泉ヶ丘遺跡（森田地区）調査区位置図

### 調査概要

本地点は遺跡の東に位置する。既往の発掘調査は行われておらず、今回が初めての調査となる。  
調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 60 ~ 90cm、標高約 11.7 ~ 11.9m 付近で黄褐色砂質土または青灰色砂質土の地山を確認した。遺構は土坑 1 基が検出され、遺物は古代須恵器（壺・瓶類）中世土師器（皿）、時期不明土製品（ふいご羽口）が出土した。

## 27. 石塚遺跡（宮脇地区）

所 在 地	高岡市石塚 39 番、40 番
調 査 期 間	平成 30 年 2 月 28 日、3 月 1、6 ~ 7 日
対 象 面 積	984 m <sup>2</sup>
試 挖 坑	2 本
発 挖 面 積	約 36.50 m <sup>2</sup>
調 査 原 因	事務所建設
検 出 遺 構	なし
出 土 遺 物	弥生土器、古墳土師器、時期不明石製品



第 36 図 石塚遺跡（宮脇地区）調査区位置図

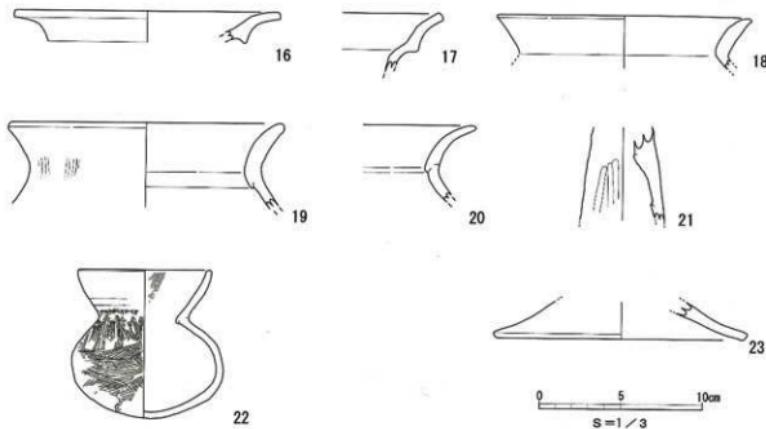
### 調査概要

本地点は遺跡の中央に位置する。平成 17 年度に本発掘調査を実施した本地点北側の新鮮市場地区・文苑堂地区では、弥生時代の集落や方形周溝墓、中世の掘立柱建物等が検出された。

調査は対象地に試掘坑を 3 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 35 ~ 145cm、標高約 9.5 ~ 10.7m 付近で灰褐色砂質土または灰褐色粘質土の地山を確認した。遺構は検出されず、遺物は弥生土器、古墳土師器、時期不明石製品が出土した。

本地点の地山は西側から東側にかけて傾斜すると考えられることから、本遺跡を南北に貫く谷地形（自然流路・凹地）が本地点に広がっており、その落ち込み部分に弥生時代～古墳時代の土器が流れ込むと想定される。

出土遺物のうち一部を図示した。16 は弥生土器の二重口縁壺である。17 ~ 23 は古墳土師器である。17 は二重口縁壺、18、20 は甕、19 は壺、21 は高杯脚部、22 は小型壺、23 は高杯底部である。



第37図 石塚遺跡（宮脇地区）遺物実測図

## 28. 大滝芋田遺跡（圃場整備地区）

所 在 地 高岡市福岡町大滝 690、699、702、748、  
757、758、834、841

調査期間 平成30年2月28日、3月27～28日、  
30日

対象面積 54,692 m<sup>2</sup>

試掘坑 7本

発掘面積 約2.52 m<sup>2</sup>

調査原因 圃場整備

検出遺構 なし

出土遺物 なし



第38図 大滝芋田遺跡（圃場整備地区）調査区位置図

### 調査概要

本地点は遺跡の中央に位置する。平成9年度の分布調査で確認された遺跡であるが、発掘調査は実施されておらず地下の状況は不明である。

調査は対象地に試掘坑を7箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約20～30cm、標高約20.1～21.5m付近で灰褐色粘質土の地山を確認した。遺構・遺物とともに検出されなかった。

対象地南西側で検出した地山は、灰褐色粘質土ではなく疊であったことから、本遺跡の地山は、地点によって灰褐色粘質土と疊で構成されていると考えられる。

## 29. 大滝遺跡（圃場整備地区）

所 在 地	高岡市福岡町大滝 513、534、535、536、1023、1122、1126
調 査 期 間	平成 30 年 3 月 29 日
対 象 面 積	73,421 m <sup>2</sup>
試 堀 坑	5 本
発 堀 面 積	約 1.80 m <sup>2</sup>
調 査 原 因	圃場整備
検 出 遺 構	なし
出 土 遺 物	古代須恵器（甕）



第 39 図 大滝遺跡（圃場整備地区）調査区位置図

### 調査概要

本地点は遺跡の中央に位置する。平成 11 年度に実施した県道西中大滝線道路拡幅工事に伴う試掘調査では、トイレ遺構と推定される土坑や溝状遺構等の近世を主体とする遺構が検出された。

調査は対象地に試掘坑を 5 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 15 ~ 25cm、標高約 17.9 ~ 18.2m 付近で褐色粘質土の地山を確認した。遺構は検出されず、遺物は古代須恵器（甕）が出土した。

## 30. 大滝島田遺跡（圃場整備地区）

所 在 地	高岡市福岡町大滝 1167、1175、1176、1180
調 査 期 間	平成 30 年 3 月 28 ~ 29 日
対 象 面 積	31,818 m <sup>2</sup>
試 堀 坑	3 本
発 堀 面 積	約 1.08 m <sup>2</sup>
調 査 原 因	圃場整備
検 出 遺 構	なし
出 土 遺 物	なし



第 40 図 大滝島田遺跡（圃場整備地区）調査区位置図

### 調査概要

本地点は遺跡の中央に位置する。平成 11 年度に実施した分布調査で確認された遺跡であるが、発掘調査は実施されておらず地下の状況は不明である。

調査は対象地に試掘坑を 3 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 20cm、標高約 19.7m 付近で灰褐色粘質土の地山を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。

### 31. 瑞龍寺遺跡（松下地区）

所 在 地 高岡市関本町 153-1、153-2、154-1、154-2  
 調 査 期 間 平成 30 年 3 月 13 日  
 対 象 面 積 355.98 m<sup>2</sup>  
 試 堀 坑 2 本  
 発 堀 面 積 約 4.00 m<sup>2</sup>  
 調 査 原 因 個人住宅建設  
 検 出 遺 構 なし  
 出 土 遺 物 なし



第 41 図 瑞龍寺遺跡（松下地区）調査区位置図

#### 調査概要

本地点は遺跡の南東に位置する。昭和 63 年度に本発掘調査を実施した防火水槽地区では、遺構は近世の溝、瓦溜り等が検出され、遺物は近世陶磁器、瓦等が出土した。

調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 65cm、標高約 10.1m 付近で黄白色粘質土の地山を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。

### 32. 瑞龍寺遺跡（田島地区）

所 在 地 高岡市上関町 36 番 1  
 調 査 期 間 平成 30 年 3 月 8 ~ 9 日  
 対 象 面 積 193.35 m<sup>2</sup>  
 試 堀 坑 4 本  
 発 堀 面 積 約 26.35 m<sup>2</sup>  
 調 査 原 因 個人住宅建設  
 検 出 遺 構 溝 1 条、土坑 3 基  
 出 土 遺 物 古代土師器（長胴甕）、古代須恵器（瓶）、中世土師器（皿）、中世珠洲（甕）、近世土師器（皿）、近世黒釉瓦（平瓦・丸瓦）、近世燃し瓦（平瓦）、時期不明土師器、時期不明土製品



第 42 図 瑞龍寺遺跡（田島地区）調査区位置図

#### 調査概要

本地点は遺跡の西側に位置する。本地点北側では、平成 8 年度の齊山地区、平成 28 年度の早借地区で本発掘調査が実施され、近世の礎石建物や瓦溜り、溝等が検出された。

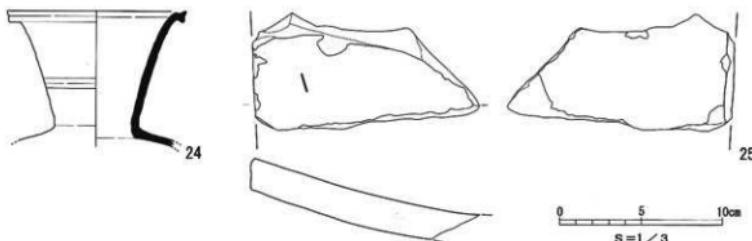
調査は対象地に試掘坑を 4 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 50 ~ 80cm、標高約 10.0 ~ 10.2m 付近で、黄褐色砂質土または黄褐色粘質土の地山を確認した。遺構は溝 1 条、土坑 3 基が検出され、遺物は古代土師器（長胴甕）、古代須恵器（瓶）、中世土師器（皿）、中世珠洲（甕）、近世土師器（皿）、近世黒釉瓦（平瓦・丸瓦）、近世燃し瓦（平瓦）、時期不明土師器、時期不明土製品が出土した。

溝は南北を主軸にし、齊山地区、早借地区で検出された溝と同軸である。寛政9年（1797）の『瑞龍寺配置古図』に描かれた「塹」（内堀）とも同軸であったため、検出された溝は、近世に属する可能性が考えられる。

地山は南から北にかけて傾斜し、北部に低地が存在すると考えられる。また、遺物は表土からの出土が多いことから、瑞龍寺境内中の流れ込みの遺物と考えられる。

加えて、この一帯は金田説（1998）では、鳴戸莊に比定されており、齊山地区出土の古代須恵器や本地点の出土遺物から、本地点周辺は古代の集落であった可能性がある。

出土遺物のうち一部を図示した。24は古代須恵器の長頸壺である。25は近世焼し瓦の平瓦である。



第43図 瑞龍寺遺跡（田島地区）遺物実測図

### 33. 越中国府関連遺跡（山下地区）

所 在 地	高岡市伏木古府三丁目 422-15
調査期間	平成30年2月23日
対象面積	208.86 m <sup>2</sup>
試掘坑	2本
発掘面積	約8.00 m <sup>2</sup>
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第44図 越中国府関連遺跡（山下地区）調査区位置図

#### 調査概要

本地点は遺跡の南側に位置する。本地点西側には中世の白山経塚が所在している。周辺における既往の調査では、古代の遺物の出土はあるものの、遺構は検出されていない。

調査は対象地に試掘坑を2箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約55～60cm、標高約16.3～16.4m付近で、黄褐色粘質土の地山を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。

### 34. 蓮花寺遺跡（畠地区）

所 在 地	高岡市蓮花寺 453
調 査 期 間	平成 30 年 3 月 14~16 日、19~20 日、22 日
対 象 面 積	965.81 m <sup>2</sup>
試 挖 坑	6 本
発 挖 面 積	約 219.53 m <sup>2</sup>
調 査 原 因	集合住宅建設
検 出 遺 構	土坑 2 基、溝 2 条
出 土 遺 物	なし



第 45 図 蓮花寺遺跡（畠地区）調査区位置図

#### 調査概要

本地点は遺跡の南側に位置する。本遺跡は平安時代から中世にかけての散布地であり、近隣には高岡市指定文化財の古代鉄鉢や中世宝筐印塔が伝わる真言宗等覚山蓮花寺が所在する。分布調査では、古代・中世の遺物が確認され、試掘調査でも同時代の遺物が出土しているが、明確な遺構は検出されていない。

調査は対象地に試掘坑を 6 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 70 ~ 80cm、標高約 6.7 ~ 7.0m 付近で灰色砂質土の地山を確認した。遺構は土坑 2 基、溝 2 条が検出され、遺物は出土しなかった。

### 35. 麻生谷遺跡（圃場整備地区）

所 在 地	高岡市石堤 543 番地ほか
調 査 期 間	平成 30 年 3 月 6 ~ 13 日
対 象 面 積	約 38,579 m <sup>2</sup>
試 挖 坑	21 本
発 挖 面 積	約 47.30 m <sup>2</sup>
調 査 原 因	圃場整備
検 出 遺 構	なし
出 土 遺 物	中世珠洲・近世肥前陶器、時期不明土師器、 時期不明陶器



第 46 図 麻生谷遺跡（圃場整備地区）調査区位置図

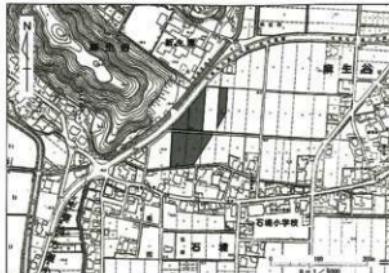
#### 調査概要

本地点は遺跡の南西端に位置し、周辺は古代北陸道に置かれた川人駅の存在が推定される地域である。平成 5 年度、平成 7 年度の本発掘調査から平安時代前期を中心とする遺構・遺物が検出された。特に井戸から古代須恵器杯の墨書「人長」が出土し、本遺跡と川人駅との関連が考えられる。

調査は対象地に試掘坑を 21 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 20 ~ 30cm、標高約 12.7 m 付近で暗灰黄色砂質土の地山を確認した。遺構は検出されず、遺物は中世珠洲・近世肥前陶器、時期不明土師器、時期不明陶器が出土した。

### 36. 麻生谷新生園遺跡（圃場整備地区）

所 在 地	高岡市石堤 543 番地ほか
調査期間	平成 30 年 3 月 6 ~ 13 日
対象面積	約 9,583 m <sup>2</sup>
試掘坑	39 本
発掘面積	約 56.7 m <sup>2</sup>
調査原因	圃場整備
検出遺構	回地 1 箇所
出土遺物	近世越中瀬戸、近世肥前磁器、近世土製品（土人形）、時期不明土師器



第 47 図 麻生谷新生園遺跡（圃場整備地区）調査区位置図

#### 調査概要

本地点は遺跡の北東端に位置する。平成 6 年度に本発掘調査を実施した本地点北隣の県道地区では、古墳時代に比定される遺構・遺物が検出され、遺跡背後に所在する丘陵の古墳群と関係のある集落跡である可能性が指摘されている。

調査は対象地に試掘坑を 39 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 35 ~ 90cm、標高約 12.4 ~ 13.5 m 付近で暗灰黄色砂質土の地山を確認した。遺構は回地 1 箇所が検出され、遺物は近世越中瀬戸、近世肥前陶器、近世肥前磁器、近世土製品（土人形）、時期不明土師器が出土した。

遺物は、対象地北側に設定したトレーナー群の黒褐色粘質土からわずかに出土しており、遺物包含層が対象地北部または東部に拡がる可能性がある。

### 37. 中曾根西遺跡（圃場整備地区）

所 在 地	高岡市中曾根 547 ほか 32 箇
調査期間	平成 30 年 3 月 5 ~ 15 日
対象面積	約 27,216 m <sup>2</sup>
試掘坑	27 本
発掘面積	約 334.19 m <sup>2</sup>
調査原因	圃場整備
検出遺構	土坑 6 基、ピット 3 基、溝 22 条
出土遺物	弥生土器、古代須恵器、中世土師器、中世珠洲、中世陶器、近世陶器、植物遺存体（モモの種）



第 48 図 中曾根西遺跡（圃場整備地区）調査区位置図

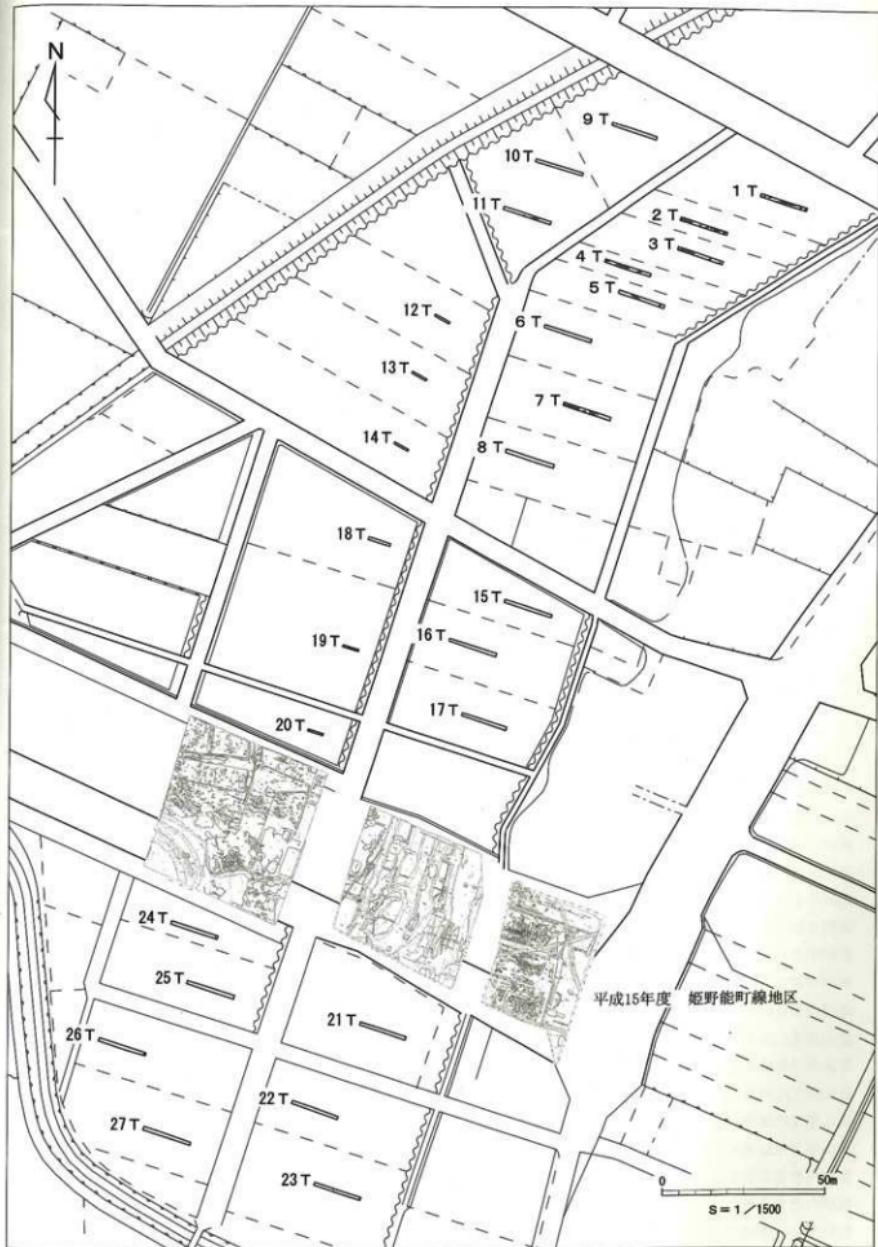
#### 調査概要

本地点は遺跡の中央に位置する。平成 15 年度に実施した県道蛭野能町線改良工事に伴う本発掘調査では、弥生時代から近世に至る複合遺跡であることが確認された。中心となる弥生時代後期では、大規模な溝や井戸、方形周溝墓等が検出された。また、平成 21 年度に実施した本地点北側の本発掘調査では、中世の道路址が検出された。

調査は対象地に試掘坑を 27 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 30cm、標高約 0.8 ~ 0.9 m 付近でにぶい黄褐色シルト、浅黄色シルトの地山を確認した。遺構は土坑 6 基、溝 22 条、ピット 3 基を検出し、遺物は弥生土器、古代須恵器、中世土師器、中世珠洲、中世陶器、近世陶器、植物遺存体（モモの種）が出土した。

遺構は対象地北側に集中して検出され、平成 21 年度に本発掘調査で検出された遺構群との繋がりが推測される。また、平成 15 年度に本発掘調査で検出された遺構群は本地点まで拡がらないと推測される。

出土遺物のうち一部を図示した。26 は古代須恵器の壺である。27 は古代土師器の鍋である。28 は古代須恵器の杯 B である。



第49図 中曾根西遺跡（圃場整備地区）トレンチ配置図（既往の調査位置図と合成）



第50図 中曾根西遺跡（圃場整備地区）遺物実測図

## 参考文献

- 金田 章裕  
瑞龍寺国宝指定記念出版刊行委員会  
高岡市教育委員会  
富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所  
富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所  
富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所  
富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所  
富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所  
福岡町教育委員会  
福岡町教育委員会  
福岡町教育委員会
- 1998 『古代景観史の探求 宮都・国府・地割』  
1999 『国宝 高岡山瑞龍寺』  
1988 『越中国府関連遺跡調査概報II』  
1990 『越中国府関連遺跡調査概報IV』  
1996 『高岡市埋蔵文化財分布調査概報VII』  
1997a 『市内遺跡調査概報VI』  
1997b 『麻生谷遺跡・麻生谷新生園遺跡調査報告』  
1999 『市内遺跡調査概報IX』  
2000a 『須田藤の木遺跡調査報告』  
2000b 『市内遺跡調査概報X』  
2001a 『市内遺跡調査概報X I』  
2001b 『石塚遺跡・東木津遺跡調査報告』  
2002 『中保B遺跡調査報告』  
2003a 『市内遺跡調査概報X III』  
2003b 『東木津遺跡調査概報II』  
2004 『間尽遺跡調査報告II』  
2005a 『市内遺跡調査概報X V』  
2005b 『中曾根西遺跡調査報告』  
2007 『石塚遺跡調査報告』  
2009 『市内遺跡調査概要 XV』  
2010a 『市内遺跡調査概報X IX』  
2010b 『中曾根西遺跡調査報告II』  
2011 『市内遺跡調査概報XX』  
2012 『市内遺跡調査概報XX I』  
2013 『市内遺跡調査概報XX II』  
2014 『市内遺跡調査概報XX III』  
2015 『市内遺跡調査概報24』  
2016 『市内遺跡調査概報25』  
2017 『市内遺跡調査概報26』  
2018 『市内遺跡調査概報27』  
2006 『下老子笠川遺跡発掘調査報告』  
2013 『井口本江遺跡発掘調査報告』  
2014 『下老子笠川遺跡・江尻遺跡発掘調査報告』  
2015 『平岡遺跡発掘調査報告』  
2016 『徳万賴成遺跡発掘調査報告』  
1992 『福岡町上野A遺跡発掘調査概要』  
2003a 『上野A遺跡発掘調査報告書II』  
2003b 『富山県福岡町埋蔵文化財分布調査報告I』

写 真 図 版



1. 江尻C遺跡  
館地区  
第2トレンチ全景(南)



2. 越中国府関連遺跡  
岩城地区  
第2トレンチ全景(南)



3. 越中国府関連遺跡  
高寺地区  
第1トレンチ全景(西)



1. 瑞穂町遺跡  
増山地区  
第1トレンチ全景（北）



2. 瑞穂町遺跡  
増山地区  
第2トレンチ全景（西）



3. 瑞穂町遺跡  
増山地区  
第5トレンチ拡張全景（東）



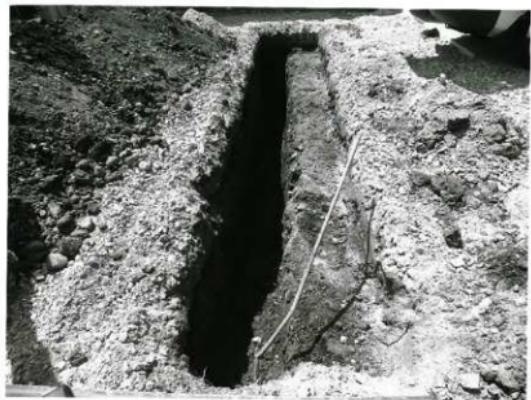
1. 上野A遺跡  
石浦地区  
第1トレンチ全景（南）



2. 瑞龍寺遺跡  
宮原地区  
第3トレンチ全景（西）



3. 瑞穂町遺跡  
澤田地区  
第2トレンチ全景（西）



1. 越中國府関連遺跡  
藤田地区  
第1 トレンチ全景（東）



2. 越中國府関連遺跡  
岩田地区  
第1 トレンチ全景（東）



3. 越中國府関連遺跡  
座谷地区  
第1 トレンチ全景（東）



1. 越中国府関連遺跡  
鶴川地区  
第1 ドレンチ全景（西）



2. 下老子笹川遺跡  
奥村地区  
第2 ドレンチ全景（南）



3. 越中国府関連遺跡  
北村地区  
第1 ドレンチ全景（南）



1. 越中国府関連遺跡  
佐藤地区  
第2トレンチ全景（北）



2. 上二上遺跡  
黒木地区  
第1トレンチ全景（南）



3. 東木津遺跡  
市道地区  
第1トレンチ全景（南西）



1. 波岡南遺跡

浦島地区

第1トレンチ全景（北西）



2. 越中国府関連遺跡

マルシン地区

第1トレンチ全景（西）



3. 東木津遺跡

西本地区

第1トレンチ全景（南西）



1. 間尽遺跡

四十九地区

第1 ドレンチ全景（西）



2. 間尽遺跡

四十九地区

第2 ドレンチ全景（西）



3. 須田藤の木遺跡

ローソン地区

第2 ドレンチ拡張全景（東）

掘立柱建物検出状況



1. 須田藤の木遺跡  
ローソン地区  
第4 レンチ全景（西）



2. 須田藤の木遺跡  
ローソン地区  
第5 レンチ全景（東）



3. 東保石坂遺跡  
圃場整備地区  
第3 レンチ全景（西）



1. 中保B遺跡  
朴木地区  
第1トレンチ全景（東）



2. 中保B遺跡  
大井地区  
第1トレンチ全景（東）



3. 井口本江遺跡  
大阪屋ショップ地区  
第14トレンチ全景（西）



1. 井口本江遺跡  
大阪屋ショップ地区  
第15 トレンチ全景（西）



2. 井口本江遺跡  
大阪屋ショップ地区  
第16 トレンチ全景（東）



3. 越中国府関連遺跡  
折井地区  
第2 トレンチ全景（北）



1. 泉ヶ丘遺跡

森田地区

第1トレンチ全景（東）



2. 石塚遺跡

宮脇地区

第2トレンチ全景（北）



2. 大滝芋田遺跡

圃場整備地区

第3トレンチ全景（南）



1. 大滝遺跡  
圃場整備地区  
第1トレンチ全景（南）



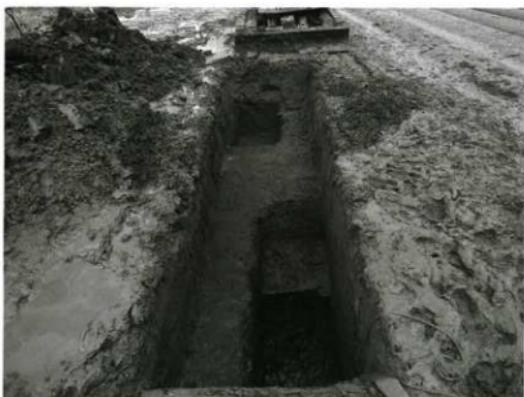
2. 大滝島田遺跡  
圃場整備地区  
第3トレンチ全景（南）



3. 瑞龍寺遺跡  
松下地区  
第1トレンチ全景（西）



1. 瑞龍寺遺跡  
田島地区  
第1トレンチ全景（東）



2. 瑞龍寺遺跡  
田島地区  
第4トレンチ全景（東）



3. 越中国府関連遺跡  
山下地区  
第1トレンチ全景（東）



1. 蓮花寺遺跡  
畠地区  
第1トレンチ全景(北)



2. 麻生谷遺跡  
圃場整備地区  
第6-5トレンチ全景(南)



3. 麻生谷新生園遺跡  
圃場整備地区  
第2-6トレンチ全景(北)



1. 中曾根西遺跡  
圃場整備地区  
第1トレンチ全景（東）



2. 中曾根西遺跡  
圃場整備地区  
第4トレンチ全景（東）



3. 中曾根西遺跡  
圃場整備地区  
第7トレンチ全景（東）

## 報告書抄録

ふりがな	とやまけんたかおかししないいせきちようさがいほうにじゅうはち							
書名	富山県高岡市市内遺跡調査概報 28							
副書名	平成 29 年度 須田藤の木遺跡の発掘調査報告他							
巻次								
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査概報							
シリーズ番号	第 79 冊							
編集機関	高岡市教育委員会							
発掘担当者	杉山大晋 田上和彦 盛田生津							
報告書編集者	杉山大晋 田上和彦 泉田佑希							
所在地	〒933-8601 富山県高岡市広小路 7 番 50 号 Tel 0766-20-1463							
発行年月日	西暦 2019 年 3 月 22 日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地 市町村	コ一ド 遺跡番号	北緯 °'\"	東經 °'\"	調査期間	調査面積	調査原因	
須田藤の木遺跡	富山県高岡市 五十里	016202	202083	36° 46' 31"	136° 59' 28"	171024 171102	2,996 m <sup>2</sup>	店舗建設
その他の遺跡 各調査区	富山県高岡市	016202				170427 180315		個人専用 住宅建設等
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
須田藤の木遺跡	官衙	古代 中世	掘立柱建物 土坑 溝	1 棟 11 基 2 条	弥生土器、古墳土師器、古代土師器、古代須恵器、中世土師器、時期不明土師器			

高岡市埋蔵文化財調査概報第 79 冊

富山県高岡市  
市内遺跡調査概報 28

編集・発行 高岡市教育委員会

〒933-8601 富山県高岡市広小路 7 番 50 号  
TEL 0766-20-1463

2019 年 3 月 22 日

印刷所 キクラ印刷株式会社

〒933-0322 富山県高岡市鍬詰 48-2  
TEL 0766-31-2794